

# 竹取物語の今。

A story of Tenryu + plus

## 天ぷら物語 あとがきにかえて

その姿をファインダー越しに捉えながら、知らず知らずのうちに、  
国語の授業を思い出す。たぶんあれは中学1年の頃。  
先生にいわれてみんなで一生懸命暗記した、物語の冒頭部分だ。

—今は昔 竹取の翁といふものありけり。

野山にまじりて、竹をとりつつ、萬のことにつかひけり。

竹やぶで鉈を振り、仕事する人たち。

平安の世と現代が、竹を取る姿とともに重なり合う。

おそらく、この文章が千年の時を越えて読まれることはないが、  
ここに収めた暮らしは、1000年後も変わらず在り続けるのではないだろうか。  
そんな風に思わずにはいられない。

もちろん、ここに収められた物語に「かぐや姫」は登場しない。

しかし、私たちのまちが進むべき道を照らす光源が、

竹とともにある暮らしの中にあると信じたい。

そして今は、夜空に浮かぶ星のごとく、淡く、かすかな光ではあるけれど、  
いつか、満月のように光り輝くことを願う。

月に向かって宣言しよう。

私たちは、この一筋の光明を「てんりゅうプラス」と呼び、  
大切に、大切に育てることにしたい。

「暮らしが見える。感じる<sup>ぬくもり</sup>体温」。

てんりゅうプラス。

このまちの「竹取物語」は、てんりゅうプラスなストーリー。



暮らしが見える。感じる<sup>ぬくもり</sup>体温。

Tenryu + Plus